

## 茨城切花流通研究会が小菊品質規格実態調査・検討会を開催

茨城切花流通研究会（京浜市場卸会社12社、関係2団体で構成）は、8月31日（水）に会員12名、生産者・関係者30名、計42名出席のもと小菊の商品性向上等を図るため、品質規格実態調査・検討会を開催しました。

本会議では、市場を通じて購入した茨城県産及び他県産（岩手県、秋田県、福島県）の小菊計17サンプルについて、参加者が5グループにわかれ、品質の状況などについて実態を調査し、その結果について、検討会を開催しました。

検討会では、会員卸会社から「一部の産地では、見た目の悪い詰め方で損をしているところがある。」との指摘や「詰め方を2段ではなく3段にする等検討した方がよいのではないか。」などの提案がありました。

また、生産者からは「他県産のサンプルと品質等の比較ができ大変参考になった。」や「もの日（※）でない日でも選ばれる産地を目指していきたい。」などの感想をいただきました。

最後に、斉藤常夫会長（(株)世田谷花き 営業部長）から「茨城県産のレベルは高く、市場としては生産量の増加を期待している。しかし、東北産地のレベルも高くなってきており、有利販売していくためには、今後とも品質や商品性の向上に積極的に取り組んでほしい。」との意見をいただき幕を閉じました。

茨城切花流通研究会では、今後とも市場と産地をつなぐ活動を通じて、花の販売促進に努めて参ります。

※ もの日（需要が高い日：小菊の場合、仏花として用いられることが多いため、お盆や彼岸需要等の時期。）



実態調査の様子